



第101回 九州林政連絡協議会を開催



九州の諸課題について意見交換

今回の会議には、九州各県、関係機関、九州森林管理局、沖縄森林管理局、沖繩森林管理局より32人が出席し、九州地域における森林・林業・木材産業の課題について意見交換を

行いました。冒頭、協議会の会長である池田直弥九州森林管理局長から、「戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎え、森林の伐採・搬出に係る生産性の向上、主伐後の更新や育林コストの低減、森林所有者の所得向上、増加するシカ被害への対応など、多くの課題が山積している。本日の意見交換を通じて、九州のこれからの森林・林業施策に活かしていけるよう、充実した会議にしたい」との挨拶がありました。

会議では、「再造林の適切な更新の確保について」「人材の育成・確保等について」「原木の安定供給体制の構築について」の3つのテーマのもとで、各県の抱える課題や取り組

九州地域における森林・林業・木材産業の課題について意見交換を行う

11月10日・11日に、沖縄県にて「第101回九州林政連絡協議会」を開きました。本協議会は、九州地域の森林・林業・木材産業の振興に資することを目的に設置され、各県の林務担当と、国の関係機関、研究機関から構成されています。

田直弥九州森林管理局長から、「戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎え、森林の伐採・搬出に係る生産性の向上、主伐後の更新や育林コストの低減、森林所有者の所得向上、増加するシカ被害への対応など、多くの課題が山積している。本日の意見交換を通じて、九州のこれからの森林・林業施策に活かしていけるよう、充実した会議にしたい」との挨拶がありました。

みについて活発な意見交換が行われました。特に「人材の育成・確保等について」のテーマにおいては、大分県より、林業就業者向けの研修教材の共有化について提案があり、今後協議会において具体的な検討を行っていくこととなりました。

二日目は現地視察が行われ、沖縄県初のプレカット工場である、沖繩トータル・プレカット・システムと、歴史的木造建造物



沖縄県初のプレカット工場を視察



清水署長より「首里城古事の森づくり」について説明

である首里城を視察し、沖縄県の木材産業や木材利用に対する理解を深めました。

なお、首里城の視察の際には、清水俊二沖繩森林管理局署長より、首里城の修復に使われる木材の確保と、木の文化、森林・林業についての森林教育の場を提供する「首里城古事の森づくり」の取り組みについて、参加者へ説明を行いました。

二日間を通じて、各県、各機関において、それぞれの取り組みをより活発なものにし、引き続き連携を強化していくことを確認し、全日程を終了しました。なお、来年度は大分県での開催を予定しています。

(担当：企画調整課)

国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催

地域の森林・林業における課題等について発言

11月24日に熊本市内において、「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開きました。

この協議会は、地域と国有林野事業の連携強化を図り、地域の発展と国有林野事業の円滑な遂行を図るため、国有林が所在する地域の市町村長の有志を構成員として設置され、毎年開いているものです。

会議冒頭では、池田直弥九州森林管理局長から、「豊かな森林資源を農山村の活性化に活かし、次世代へ継承していくことが我々に課せられた義務。国有林の技術や森林総合監理士などの人材を活かし、市町村のみならずと連携して、地域の森林を少しでも良くするように取り組んで参りたい」とのあいさつがありました。



冒頭挨拶する池田局長



各県を代表し8名の市町村長等が出席

また、林野庁から出席した原田経営企画課長よりあいさつがあり、続いて森山森林保護対策室長より林野庁の主要な取り組みや平成28年度予算概算要求の状況について説明が行われました。

その後、ご出席いただいた市町村長より、各県で開催された有志協議会のご報告や、各市町村での取り組みについてご紹介をいただきました。

市町村長からは、海岸林の松くい虫被害対策やシカ・イノシシなどの鳥獣被害対策の強化、林業振興に向けた取り組みの推進、森林の観光利用における支援や公共木造建築物における木

材利用の支援に関する要望や、拡大する竹林への対策や地域産材の利用促進などの取り組みについてご

発言いただきました。

続いて、九州森林管理局より、現在主な課題として取り組みを強化していることとして、確実な再造林の実施に向けた低コスト化の推進、深刻化するシカ被害対策への対応、森林総合監理士による地域課題への対応、森林景観を活かした観光資源の創出、被災地の森林・林業の再生に向けた取組への貢献といった5つの取り組みについて説明を行いました。

最後に九州森林管理局長より、それぞれの課題・要望に対して、具体的に取組を進め、各市



シカ被害対策等について活発な議論

町村と一緒に地域の課題にしっかりと対応していきたいとの発言があり、会議を閉会しました。
(担当：企画調整課)

合同安全パトロールを実施

【宮崎森林管理署】当署では、請負事業者などの労働災害防止対策の推進の一環として、11月9日に宮崎労働基準監督署、林防宮崎県支部、宮崎県中部農林振興局と合同で、宮崎市内の国有林（保育間伐（活用型）実行箇所と造林実行箇所）を、また、11月16日には、都城労働基準監督署と林防宮崎県支部、宮崎県森林組合連合会と合同で小林市須木地区の国有林（保育間伐（活用型）実行箇所）の安全パトロールを行いました。

パトロールでは、冒頭、鈴木正勝宮崎森林管理署長から、宮崎県における林業労働災害の現状や災害の概況等について、また、各労働基準監督署から、民有林を含めた林業全体から見た労働災害の現状や災害分析について説明がありました。

点検後は、林防宮崎県支部の各地区安全衛生指導員から、現場の施設、作業状況についての指摘などがあり、また関連する規則や伐木作業ガイドライン

の遵守についてコメントがありました。

当署では、立木販売箇所や請負現場において、依然として災害が発生するなど、安全に対する意識が向上しているとは言えない実態があることから、今後は、当署管内からは林業労働災害が発生しないよう、発注者・受注者双方が安全に対する意識をさらに向上させていくことを確認しパトロールを終えました。

終了後、当署企画の今回のパトロールに関して、労働基準監督署から「林業労働災害防止協調運動期間」にこうした取り組みが出来たことに対する謝意を受けたところであり、今後も関係機関と連携した安全の取り組みを継続していきたいと考えています。



現場でのパトロールの様子

植樹祭に460人が参加

【鹿児島森林管理署】11月19日 当署及び鹿児島県、かごしまみどりの基金が主催して、桜島において「九州森林の日植樹祭」を開きました。

この植樹祭は、2008年に九州7県及び九州森林管理局が宣言した「九州の森林づくりに関する共同宣言」の行動指針に基づき毎年実施しているもので、今年が9回目となります。

今年、桜島地区民有林直轄治山事業が始まって40周年に当たることから、その記念事業として

して桜島の民有林直轄治山事業の施工地で行いました。

当日は、三反園訓鹿児島県知事外の来賓を迎え、桜州緑の少年団及び鹿児島銀行などの協賛企業4社、森林ボランティア団体など約460人が参加しました。

植樹祭では、当署の職員が植樹指導などを行い、抵抗性クロマツと地元小学校が育てたアラカシ及びマテバシイの3種類の苗木1千本を植えました。

植樹後は、治山施工地に移動して、田代美喜夫総括治山技術官による直轄治山事業の説明と、ドローンの実演飛行を行いました。

楽しんでいる。

このような私が国有林モニターの活動を行えることは幸運なことと思う。林野関係の読み物は、それら全般を勉強できるので、届くことをいつも首を長くして待っている。

私たちの生存環境に森林は不可欠である。言うまでもなく、森林は木材等の生産のほか、空気の浄化、土砂災害の防止、地球温暖化の防止など、多くの大切な役割を果たしている。近年、多発している土砂災害は、自然をむやみにしたツケ

た。

参加者からは、「緑にあふれる桜島になってほしい」「治山施工地を間近で見られて良かった」などの意見が出され、森林



460人が参加した植樹祭

を守り育てる意識の醸成や治山事業のPRに、有意義な植樹祭となりました。

クリーン作戦に汗を流す

【宮崎南部森林管理署】串間市の市木地区自治会主催による「市木浜クリーン作戦」が、地元住民や関係自治体職員325人が参加して行われました。

市木浜は、「なぎさ百選」に選ばれ、目の前には野生猿で有名な「幸島」があり、日南海岸の中でも特に美しい砂浜が広がる海岸です。

当署からは、地元森林官をはじめ、木に親しむことから始めて、次は、森や林で遊び楽しみ、樹木から漂うフイトンチッドのリラックスイ効果を満喫する。そこから、森林ボランティアへと発展させ、



清掃活動に汗を流す参加者

てこなかつたから、自然破壊や乱開発等が社会の中で闊歩した。その結果が近年の続発する大規模な豪雨災害である。私たちは、この事実を謙虚に受け止めて、省しなければならぬ。そこから森林を大切にすることを生じるだろう。

国有林モニター制度は、1人でも多くの人に経験してもらい、森林について正しく理解していただきたいと思う。地球温暖化が世界的な問題になっている最中だから尚更だ。私たちの明るい未来のためにも、永久にこの制度を続けて欲しい。

(大分県別府市在住)



私は自然が好きだ。趣味が森林浴なので、暇ができるフイトンチッドを求めて森の中を歩き回っている。忙しくて森へ行けない時は自宅の庭を手入れすることで、自然との触れ合いを



原田 真美さん

モニター活動から思ったこと

間や生き物にとつての良い住環境となるよう尽力する必要がある。これは、待ったなしの喫急の課題ではなからうか。

森林を大切に育てる気持ちは育むには、幼少期から教育する必

その素晴らしさと必要性を学んでいく。森林の重要性を教える教育は成人してからでは遅い。小学校から高校までの十二年間、これまで、森林教育を主体的に行っ

フォレスター等活動推進会議を開催
 ～課題への対応や知識・技術力の向上を図る～

11月17・18日の2日間、局大会議室においてフォレスター等活動推進会議を、九州フォレスター等連絡協議会との共催により開きました。

本会議は、九州管内のフォレスターなどを対象に、地域で活動する中で新たな課題への対応や、知識・技術力向上のためのフォローアップ（CPD（継続専門教育）の一環）を図ることを目的に毎年開いており、特別講演には、九州各県のフォレスターなどのほか、木材・建設業界などからの参加者も含め約130人が参加しました。



130人が参加した特別講演



特別講演の小島課長

1日目は、特別講演として林野庁整備課長小島孝文氏が「林業の成長産業化におけるフォレスターの役割」と題し、林業・木材産業の成長産業化による地方創世や新たな木材需要の創出などについて、また、（一社）日本森林技術協会九州事務所中村松三氏が「低コスト再造林の目指すところは・・・現在、そして10年先」と題し、再造林コスト削減に向けた技術開発や10年先の展望などについて、最後に、「（株）寺床林産寺床隆志氏が「責任ある素材生産業のための行動規範及び伐採・搬出・再



特別講演の中村氏

造林ガイドライン」と題し、鹿児島県において策定された当方イドラインなどに係る経緯・取り組みなどについて講演を行いました。



特別講演の寺床氏

2日目は、福岡県糸島市、長崎県、大分県森林管理署で取り組まれている市町村森林整備計画に向けた取り組みや、離島における林業事業体などの育成に向けた普及活動及びケーススタディ地区の取組活動などについて情報提供を行い、活発な意見交換が行われました。



取り組み状況など情報提供

また、セミナー終了後に「九州フォレスター等連絡協議会」が行われ、各機関における取組状況の報告、今後の活動方針などについて意見交換が行われました。

（担当：技術普及課）

テドウ山登山を案内

【沖繩森林管理署】10月15日、西表島の西部に位置するテドウ山で、竹富町立船浦中学校の登山が行われました。

船浦中学校では学校行事の一環として、3年毎に浦内川筏下り、西表島横断、テドウ山登山を行っており、今年度は全生徒20人を含む、約54人で租納森林事務所森林官の案内のもと、テドウ山登山を行いました。

当日は、集合時間に強い雨が降り、登山できるか心配されましたが、船着き場を出発し登山道を歩く頃にはすっかり雨も止み、曇ってはいたものの暑くもなく最高の登山日となりました。

登山は、生徒たちの頑張りもあり、予定通り昼には頂上に到達し、昼食・記念撮影を行いました。下山途中には、船浦・上原地域が見渡せる展望所があり、そ



休憩中も和気あいあい

こで子どもたちが自分たちの学校を見つけ、喜んでいる姿がとても印象的でした。

3年生にとっては最後の登山、1年生にとっては初めての登山で、西表島の自然の素晴らしさを体感し、子どもたちの友情がより深まったような気がします。

解団式では、各学年代表の生徒から登山の感想が発表され、登山を無事終了することができました。



全員そろって記念写真

人のうごき

12月1日付森林管理局局長発令
熊本署地域技術官

大山昭一【西都児湯署地域技術官】

宮崎署都城支署首席森林官

坂田博之【北薩署森林官】

北薩署森林官

由谷浩一【宮崎署都城支署首席森林官】

屋久島森林生態系保全センター

三國卓裕【経理課】

経理課

遠山祐吏【宮崎南部署】

(担当II総務課)

JICA研修生を受入

【西表森林生態系保全センター】

2016年度の国際協力機構(JICA)による集団研修の一つである「地域住民参加による持続的な森林管理」コースの研修生を、11月8・9日に受け入れました。

研修生は、11カ国から16人が参加しており、8日は、沖縄県や西表島の森林概況や、当センターの活動状況などに関する講義を受講しました。

9日には、海岸林再生のための試験地や、巨樹・巨木の一つ



講義を受ける研修生

であるサキシマスオウノキの現地及び亜熱帯林の中を実際に歩いて視察しました。

研修生の多くは熱帯地域の国から参加していることから、西表島にある現場などの視察では気候や植生などの共通性などを感じながら、様々な質問などをしていました。

今回の西表島での経験が、帰国後の彼らの活動に寄与できることが期待されます。

不法投棄ゼロに向けて

【熊本南部森林管理署】11月9日、国道221号線(人吉市側

ループ橋)沿線及び周辺の大畑国有林において、人吉市役所並びに地元自治会、請負事業体、当署と合同で、クリーン活動を行いました。



急斜面でのクリーン活動の様子

当日は、前日の雨の影響も無く晴天に恵まれ、熊本南部林業土木協議会及び球磨川流域林業事業協同組合の協力も得て、総勢61人で2時間程度、ゴミの回収作業に汗を流しました。回収されたゴミの量は、可燃ゴミ370kg、不燃ゴミ120kg、タイヤ1つ7本、ガレキなど130kgと、大量のゴミを回収することが出来ました。国道沿線であることから、ポイ捨てされるゴミも多くありますが、今後とも地元自治会と協力して、不法投棄防止の活動を継続していきます。

最後に地元自治会からの感謝の言葉があり、参加者は不法投棄が無くなるよう念じつつ、当日の活動を終了しました。

2016年を振り返って

いろいろな出来事がありました

一般会計化となり4年目を迎えました。今年は熊本地震の発生などさまざまな出来事がありました。ここでは、九州森林管理局の主な出来事を「広報九州」で振り返ってみたい。

地方意見交換会を開催

1月21日、森林・林業基本計画の変更にあたり、国民各界各層の幅広い意見を計画に反映していくため、九州ブロックの「森林・林業基本計画の変更にかかる地方意見交換会」を開き、それぞれの分野から見た、森林・林業の現状や課題、新たな取り組みなどを織り交ぜながら、次期基本計画に対する要望・意見を発表し、それぞれに活発な質疑応答が行われました。



意見を交わす参加者

ゴイシツパメシジミの検討会を開催



検討会の様子

2月10日、熊本南部森林管理署において、「九州中央山地希少野生生物保護管理対策調査業務(ゴイシツパメシジミ)検討会」を開きました。

検討会には、ゴイシツパメシジミの専門家、生息地の県や市町村、環境省などが参加、調査業務の結果や森林管理署が行っている巡視・シンシラン保護増殖業務、市町村の取り組みなどについて報告があり、専門家など出席者からの意見・助言をいただきました。

綾プロ連絡会議を開催

2月22日、宮崎県綾町役場において、協定締結から10年を迎える、綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾プロ）連絡会議が、協定5者出席のもと開かれました。

会議では、事業の取組状況、管理計画の策定などについて報告・提案があり、事務局案にて了承されるとともに、今後連携しながら各事業に取り組みることが確認されました。

また、綾プロ事業説明会を「綾町公民館大会」に併せて行い、綾町民など約600人が参加する中、事業の報告と綾プロ主催のイベント案内を行いました。



町民に事業説明

有識者懇談会を開催



意見を述べる有識者委員

3月2日、「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、九州森林管理局が管理する国有林の地域管理経営計画と、国有林野施業実施計画の樹立及び変更に係る、有識者懇談会を開きました。

懇談会は「地域管理経営計画の策定等について」及び「林業の成長産業化に向けた九州森林管理局の取組について」の2部構成で行われ、今回の計画樹立・変更に対しては意見なしの結論を頂くとともに、取組みに対しての貴重なご意見を頂きました。

野生鳥獣との共存に向けた検討委員会を開く

2015年度の「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備

調査事業（九州中央山地地域）検討委員会」が開かれ、本事業に関連する発注事業の実施報告、本年度の調査結果に対する検討が行われました。

委員からは、GPSテレメトリ法の行動調査データは貴重な事業結果であり、シカ被害対策への積極的な活用促進を図れないか、また、ジビエ利用への取組みなどについて意見が出されました。



シカ対策等の検討を行いました

間伐推進コンクール表彰式を開催

平成27年度国有林間伐推進コンクールの表彰式を、九州森林管理局において行いました。

2015年度は、宮崎県小林市の永島林業株式会社、林野庁長官表彰の最優秀賞を、熊本県



コンクール受賞者の皆様

人吉市の株式会社泉林業が優秀賞を受賞されました。

また、九州森林管理局長表彰の優秀賞として、大分県大分市の菊池木材株式会社を受賞されました。

治山・林道コンクール表彰式を開催

4月7日、平成27年度治山・林道コンクールの表彰式を行い、九州森林管理局長賞として治山工事3社、林道工事3社を表彰しました。

また、当局が推薦し、林野庁長官賞を受賞された、治山工事1社、林道工事1社に対し、屋久杉の額縁を贈呈するとともに、当該工事の担当技術者並びに監督職員に対し、局長表彰を行いました。

緑の募金の贈呈を受ける

4月8日、「緑の募金全国一斉強調週間」に先駆け、(社)熊本林業土木協会会長永野征四郎氏より、九州森林管理局長へ緑の募金贈呈が行われました。(社)熊本林業土木協会からは、毎年募金の贈呈があり、局内の募金とあわせて全国の森林整備や緑化推進事業に活用されています。



永野会長より募金の贈呈



各賞を受賞された皆様

平成28年熊本地震発生

4月14日及び16日に発生した「平成28年熊本地震」による被害は、熊本県・大分県を中心に、長崎・宮崎・福岡・佐賀の各県にも被害の拡大が見られ、九州森林管理局では、この地震に對しいち早く被災者への支援や被害状況の把握など行いました。

【地震への対応】

4月14日「地震情報連絡室」を設置、4月15日「九州森林管理局緊急自然災害対策本部」を設置し局内の情報共有と今後の対策への対応を行う。

【地域への支援等】

○避難者受け入れ可能宿舎情報の提供
○毛布や飲料水などの備蓄品の提供
○局の大会議室と旧食堂を避難



避難者の方へ食料提供



旧食堂を避難所として開放

所として開放

○近隣住民に対して物資提供
○食糧供給支援のため局職員を派遣

○罹災証明手続きの支援のため局職員を派遣

○避難所に、更衣室・パーティションを設置

【被害状況の把握】

熊本県及び森林総合研究所と連携し、被害の大きかった地域を中心にヘリコプターによる上空からの被害状況調査を行いました。

また、被害現地調査協力及び災害復旧に向けた現地指導のため林野庁及び局職員を派遣しました。

【救援物資提供へのお礼】

今回の地震被災に對しまして各方面から救援物資のご提供をいただき、ありがとうございます。

唐津南高校へ感謝状を贈呈

6月16日、2015年度の「国民の森林づくり推進功労者」に對する、林野庁長官感謝状の贈呈式を、佐賀県立唐津南高等学校において行いました。

唐津南高校は、国の名勝「虹の松原」の再生・保全活動を行うため「松露プロジェクトチーム」を結成、その活動は、全校ボランティアによる松葉掻き、保全活動の指導、広報活動など多岐にわたり、その取り組みが高く評価され、今回感謝状を授与されたものです。



唐津南高校へ感謝状の贈呈

供給調整検討委員会を開催

6月16日、本年度第1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。



検討委員会の様子

委員からは、「バイオマスや輸出関連で原木は増産の流れにある。今後は価格の長期契約を結び、伐採と再生産のバランスを考えて安定的に出すという方向で進めていく時期にきている」などの意見があり、「現状では供給調整を行うことは要しない」との結果になりました。

重点取組事項及び地震被害を説明

7月15日と19日の両日、2016年度九州森林管理局重点取組事項並びに熊本地震の被害状況及び対応について、一般紙及び専門誌への記者発表を行いました。

記者発表では、洲上和之局長の挨拶の後、各事項の担当者より具体的な内容について説明を行いました。

コンテナ苗の需給拡大に向けて

7月26・27日の2日間、「平成28年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会」を開き、関係者約90人が出席。

調整会議では、島根県林業種苗協同組合の取り組み、需要見通しの調整、意見交換などを行い、検討会では、関係機関からの話題提供の後質疑応答が行われ、活発な検討会となりました。

翌日は、熊本署管内の吉無田国有林において、一貫作業システムを取り組みなど説明、その後意見交換を行いました。



現地で検討を行う参加者

九州森林管理局長交代

8月1日付で、洲上和之前局長が北海道森林管理局長へ転出、後任に池田直弥・前林野庁森林整備部整備課長が就任しました。

農政局のイベントに参加

8月3・4日、熊本地方合同庁舎において、九州農政局主催の「しゅとつと？国のお仕事」夏休み見学デー」が開かれました。

九州森林管理局のブースでは、木工教室、「山の日」ののぼりやパンフレットの設置などを行い、多くの来場者が訪れました。来場者の中には、木工教室に毎年参加してくれる親子もいて、大好評のイベントになりました。



親子でもつくん作り

屋久島の課題解決に向けて

8月4・5日、今年度第1回目の屋久島世界遺産地域科学委員会及び科学委員会の作業部会であるヤクシカ・ワーキンググ



課題を議論する各委員

ループ会議を、屋久島環境文化村センターにおいて開きました。委員会では、屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況などについて論議され、各委員からの助言をいただきました。

また、前日に開かれた、ヤクシカ・ワーキンググループ会議と特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議の報告、屋久島町からの報告などがありました。

小学校教諭に「森の塾」

8月8日、熊本県内の小学校教諭7人が参加し、「森の塾」を開きました。

今回は、森林の整備・保全、林業の成長産業化に向けた取り組みなどの説明、樹木鑑定、木工品づくりなどの実習も行いました。

最後に行ったアンケートでは、「楽しく学びのある研修でした、学校に持ち帰って環境教育に生かしたいと思います、学校への出張講座があるといいですね」などの感想が寄せられました。



説明を聞く小学校の先生たち

監物台樹木園再開園

熊本地震により、園内建物の被災、熊本城内立入り規制などにより臨時休園としていた、監物台樹木園を、8月11日の「山の日」にあわせて再開園しました。

局長就任記者会見を開く

8月17日、報道機関各社が出席し、池田直弥局長の就任記者会見が開かれ、熊本地震への対応など、特に取り組みたい事項について説明を行いました。

農林水産大臣感謝状を贈呈

平成28年熊本地震に際し、災害援助に貢献いただいた、6団体に對し、農林水産大臣感謝状が贈呈されました。

各団体は、地震発生直後から食料、飲料水、生活用品などの支援物資を提供いただき、その貢献が評価され、今回の感謝状贈呈となったものです。



大臣感謝状贈呈の様子

緊急自然災害対策本部を解散

9月1日、九州森林管理局防災業務計画などに基づく防災訓練を行いました。

また、同日「九州森林管理局緊急自然災害対策本部」を解散引き続き「平成28年熊本地震復興推進本部」として地震被害からの早期復旧・復興について取り組むこととしています。

ナイストライ事業に5人の中学生

9月13～15日にかけて、熊本市立京陵中学校2年生5人を受け入れ、ナイストライ事業を行いました。

3日間の限られた期間の中でしたが、現場での業務や広報の仕事を経験してもらいました。



広報誌作成中の中学生

芦北高校生が林業実践体験研修

水俣芦北森林組合からの依頼により、熊本県立芦北高等学校林業科2年生7人を対象に、林業実践体験研修を行いました。

今回は、中村次長、迫口保全課長から、森林・林業基本計画のポイントや、九州森林管理局の概要などについて、講義を受けました。

国有林七ニター会議を開催

10月14日、長崎県島原市において、平成28年度国有林七ニター会議を開き、20人の国有林七ニターの皆様にご参加いただきました。

今回は、「安全で安心な暮らしの実現」の観点から、雲仙・普賢岳と眉山の治山事業を視察しました。



治山ダム等視察の様子

技術交流発表大会を開催

10月18・19日の両日、九州沖縄各県の森林・林業関係者や、森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など、両日で延べ約510人が参加し「平成28年度森林・林業の技術交流発表大会」を開きました。

発表は、一般の部・高校生の部合わせて40課題あり、その中



発表大会の様子

から評価の高かった、一般の部8課題・高校生の部3課題を発表しました。

保護林管理委員会を開催

10月21日、今年度第1回の保護林管理委員会を開きました。

委員会では、保護林制度及び制度改正の概要、今後の保護林再編の方針などについて、検討が行われました。



保護林管理委員会の様子

(担当：総務課)

採材検討会で認識を共有

【熊本森林管理署】熊本木材市場において「平成28年度採材検討会」を開催し、請負事業者、システム販売協定相手方、木材市場関係者及び当署関係職員など、約45人が参加しました。

当検討会は、山元での採材技術向上を図り、川上・川下どちらにも有利になる採材を行うため、毎年開いています。

検討会では、スギやヒノキの丸太が径級・長さ毎に並べられ、市場関係者からそれぞれの丸太がABC材のどれに当てはまるのか、また、現場で採材する際に注意してほしいことなどについて詳しい説明がありました。

その後意見交換を行い、参加者からは活発な意見や質問が多く出され、川上から川下までの認識を共有することが出来た有意義な採材検討会となりました。



多数の関係者が参加した採材検討会

阿蘇市黒川に阿蘇監督員詰所開所

～本格化する治山事業の円滑な実施を図るため～

2016年4月の熊本大地震により阿蘇市及び南阿蘇村を中心に大規模な山地の崩壊等が発生し、林地荒廃とともにこれまで整備してきた治山施設も甚大な被害を受けました。

九州森林管理局では熊本県知事からの要請を受け、県が管理している治山施設のうち大地震により被災した治山施設について、阿蘇市内4地区、南阿蘇村内13地区で特定民有林直轄治山施設災害復旧事業により、今後、概ね3年間の予定で復旧整備を行います。

今後、事業が本格化することとなることから事業の円滑な実施を図るため、12月1日、関係機関や工事受注者等との打合せ等を行う監督員の詰所を旧JA



開所した阿蘇監督員詰所

(担当：治山課)



東小堀B地区：被災前の治山ダム



東小堀B地区：被災後の治山ダム

今後の無災害を誓って

後の請負事業体等の無災害を誓って閉会しました。

共同で国有林内を清掃

【熊本森林管理署】当署の森林整備事業保育間伐（活用型）実行箇所において、労働基準監督署、請負事業体、当署関係職員などが参加して、労働基準監督署との連絡協議会を開きました。当日は、実際に伐倒から造材までの作業工程を見ながら、安全な作業が行われているか全員でパトロールしました。パトロール終了後には、労働基準監督署より安全指導があり、かかり木処理や接近作業などについて話がありました。

【宮崎森林管理署】当署では、国有林のクリーン活動の一環として、例年宮崎県や企業ボランティアの皆さんと共同で、国有林内のゴミ拾いを行っています。今回は11月2日に、署職員10人を含む参加者40人で、宮崎市田野町内の県道に面した国有林内を清掃しました。約2時間の作業で収集したゴミ

ミは、空き缶や弁当箱などの家庭ゴミ、中には大型冷蔵庫や電子レンジなどが投棄されており、その量は2トトラック1台と軽トラック2台分にもなりました。当日は、NHK宮崎放送局が取材に訪れ、取材を受けた築川伸一総括森林整備官から「ゴミは責任を持って処分していただきたい」とコメントがあり、この取材の様子は当日テレビ放映されました。当署では引き続き、こうした取り組みを展開し、市民の環境美化に対するモラル向上につな



藪の中にはゴミがいっぱい

がることを期待しているところです。



作業現場で行われた連絡協議会

請負事業体からも日頃の体験談を交えた安全対策などを話して頂き、最後に参加者全員で「目でよし、手でよし、セロ口災で行こうよし！」を唱和し、今

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

オオイタビは暖地の海岸や岩上、あるいは石垣などに生える雌雄異株の常緑藤本です。環境によっては大小の葉に大きく変化しますので注意を要します。花が果実の中にある代表で隠頭（イチジク状）花序といいま

109 オオイタビ（クワノキ科）

す。雄花のうちには、オオイタビコバチが入りする穴が空いた上側に雄花があり、下にはコバチの幼虫が羽化するまで寄生する虫食い花があります。雄花は、羽化したコバチのメスが外に出る頃熟して花粉を運ばせる共生関係にあります。樹木園の西側の中央付近にク

スノキに巻きつき大きく繁茂しているオオイタビがあります。夏を過ぎると大きな花のうが落ちていきますので、果実を割って中を観察してください。2種類の花がはっきり見えているのは雄花のうです。日当たりが良いので2〜3月の観察でも紫色に熟した雄かのうが落下しており、果実を二つに割ると、雄花と虫食い花が健在で、はっきりと二つの花が観察できます。私はヒメイタビの雌かのうは観察し口にしましたが、オオイタビの雌かのうを観察したことはありません。



みどりの歩路

2016年もあと少し、今年もいろいろな事がありました▼本誌面でも今年の振り返りを掲載しています、局長の交代、各種会議や委員会などありましたが、やはり熊本地震が1番の出来事でしょう、私自身今でも地震発生時の記憶がまざまざと残っています▼地震発生から8ヶ月がたち、仮設住宅への入居、被災家屋の解体・撤去、道路の復旧整備など、少しずつ復旧・復興へ向け、進んでいることを実感しています▼そのような中、九州森林管理局では、熊本県の要請を受け実行している、被災した県管理の治山施設の復旧整備事業が、今後本格化することから、今月1日に阿蘇市黒川に監督員詰所を開設しました▼詰所開設により、円滑な事業実施が図られ、早期の復旧整備が進むことが期待されます（本誌9頁参照）▼よく今年を漢字1字で表しますが、私の1字は「記」地震も含めて記憶にも記録にも残る1年でした▼本誌が皆さんの「記」憶に残るものになったのか、不安を抱えつつ、来年も「広報九州」をよろしくお願いたします。（や）